



人は古来より食事を共にすることで他者との融和を図ってきた。おいしいものを食べれば顔がほころび、会話も弾む。「食」は身体を維持する栄養補給の他に、コミュニケーションを円滑にするためのツールとしての側面を持っている。

昨今、我が国では地域コミュニティの衰退が進行し、地域の抱える様々な問題に対処することが徐々に困難となってきた。このような状況の中で「食」を核とし、様々な地域課題を解決することを目的としたコミュニティ・ビジネスの起業モデルであるコミュニティ・レストラン（以下コミレス）は、新たな地域課題解決の拠点として全国各地に広がりを見せている。このような流れに注目し、今回コミレスを特集することにした。

この特集を組むに当たり、様々な方に執筆をお願いした。執筆に当たり、特段決まりを設けなかったのだが、執筆していただいた方々の文面に何度か出てくる共通の言葉がある。

それは「あたりまえ」という言葉。

この特集の完成が近づくにつれ、人々が「あたりまえ」に暮らししていくためのツールとしてコミレスが大きな役割を持つ。そういったメッセージとしてこの言葉が用いられている気がしてきた。

愛媛においてのコミレスはまだまだ産声を上げたばかりである。しかしながら県内各地で様々な取り組みが始まっており、今後の盛り上がり期待を抱かずにはいられない。本特集が微力ではあるが愛媛のコミレスのさらなる成長のきっかけとなるとともに、「あたりまえ」の暮らしを取り戻すための一つの「気づき」となれば幸いである。

(研究員 大政 太)

■表紙のことは

弓削島には三度目の訪れ、来てみてやっぱり近くて遠い島。この島で住民と共同出資により「しまの会社」を設立して島の旬を全国に発信し、島の活性を目指す一人の男性がいる。過疎、少子高齢化は島だけの問題ではない。年寄りも島で採れた旬の食材に、加工など愛情と工夫で頑張っている。島の特産の魚、レモン飴、新鮮で美味しい、やさしい味でした。喫茶の窓からの島の風景がまだ心に残る。



柳原あやこ

●基調論文 1

「コミュニティ・レストラン」

～公共する食卓の広がりとその可能性～

世古 一穂／(特非)NPO 研修・情報センター代表理事
前金沢大学大学院教授
コミレスネットワーク全国代表

1

●基調論文 2

コミレスを広げるために必要な中間支援組織の活動

伊藤 規久子／コミレスネットワーク北海道代表

6

●アングル

コミュニティ・レストランとの出逢い

～愛媛にコミュニティ・レストランを～

須山 広周／(財)えひめ地域政策研究センター主任研究員

8

●特集／コミュニティ・レストラン

フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU

竹内 よし子／NPO 法人 えひめグローバルネットワーク代表

10

島民の、島民による、島民のためのカフェ

兼頭 一司／(株)しまの会社代表取締役社長

12

地域で暮らすことの意味

～心のテーブルを共に囲んで～

中矢 暁美／有限会社託老所あんき代表

14

ユニクリコミレスで無縁社会をなくしたい

佐伯 康人／NPO 法人ユニバーサルクリエート代表

16

●意見交換会

コミレスを四国に広げよう

18

●Information

コミレス全国フォーラム in 松山 2010

20

●キラリ光るまち

人が輝けば、まちも輝く。

～女性達が輝く！ Beppin 塾～

鈴木 美幸／まちづくり Beppin 塾

22

●特選ブログ／shin 1 さんの日記

コミレス雑感

若松 進一／人間牧場主・年輪塾々長

24

●MY TOWN うおっちゃんぐ

仏像に見る、大なるものへの憧憬

岡崎 直司／タウンツーリズム講座主宰・ヘリテージマネージャー

26

●TALK NOW

超郊外居住のすすめ

柏谷 増男／(財)えひめ地域政策研究センター特別研究員

28